

*「ボレーシェ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



ホームページ 全面リニューアル!!

NPO(特定非営利活動法人)チェルノブイリ救援・中部



2010 年元旦、名古屋は珍しく雪景色の朝を迎え、時を同じくして、チェル救の新ホームページ (HP) がスタートしました。新メンバーマルオさん (次ページに自己紹介あり) の力を借りて、素敵な HP に仕上がりました。HP のタイトル・メインテーマは「**届けみんなのこころ、よみがえれ、命めぐる大地**」です。ナロジチで暮らす人々と、チェル救に関わる人々の思いがひとつになり、「菜の花プロジェクト」がナロジチの復興へとつながることを願ってつけられたタイトルです。新 HP を訪れると、先ずこのタイトルがみなさんをお迎えします。新 HP は、まさにチェル救のデパート、お目当てのページに行くのもよし、ぶらぶら歩きながら面白そうだなというページに行くのもよし、好きな項目をどんどんクリックしてください。「菜の花プロジェクト (動画も見られます)」の最新情報はもちろんの事、各種イベント情報や河田さんのボレーシェ連載記事、竹内さんのウクライナ便り、事務局スタッフブログ、チェルノブイリ被災者からの 56 通の手紙 (復刻版)、ウクライナ写真ギャラリー…まだまだ盛りだくさんのページが、みなさんの訪問をお待ちしています。是非、新 HP を訪れてみてください。

もちろん、新 HP が立ち上がったと言っても、完成した訳ではありません。現地の人々・チェル救スタッフ・チェル救サポーター・チェル救に関心を持つ人々が、心を響かせ、笑顔と温もりでつながりの輪を広げていけるコミュニティ、そんな HP に育てていきたいと思っています。HP を担当するチームも発足し、メンバー同張り切っています。みなさんも、是非「HP 育て」に参加してください。新 HP を見て、感想や意見をお寄せください。そして、一人でも多くの人に「チェル救の新しい HP を一度見てみて!!」と紹介してください。(池田光司)

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町 137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表: 小牧 崇

郵便振替: 00880-7-108610

TEL/FAX: 052-836-1073 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

早わかり!! チェル救 新ホームページ

メインテーマ
(どのページにとんでも、いつも表示。クリックすると、TOP ページに戻ります。)

情報・コラム
(チェルノブイリ原発情報、各種コラムなどの閲覧情報につながります。)

主な活動の目次
(各表示をクリックするだけで、色々な活動をすぐに見ることができます。)

ニュース・更新情報
(イベント・企画の案内です。上から順に、短期・中期・長期となっています。)

ウクライナの地に根を張る活動を支援しています。

いつもチェルノブイリ救援・中部をご支援いただいている皆様、はじめまして！

今回ホームページを担当させていただいた「マルオ」です。2009年11月末からHP製作をお任せいただく事になって、チームを作り、情報を集め、皆の意見を交換し、こうしてやっと皆さんにお披露目させていただくことができました。およそ20年にわたる活動を整理し、できるだけ見やすくまとめてみたつもりです。

これまでの活動をあらためて整理すると、その多岐にわたる支援に目を見張るばかり。

近年のメイン活動「菜の花プロジェクト」の動画公開はもちろん、「チェルノブイリ原発事故が起った経緯」「今なお続く放射能汚染の連鎖」などの情報も充実しています。「チェルノブイリ被災者からの手紙」もホームページ上で閲覧できるようになり、あらためて支援の思いを強くすることができます。少々個人的な事をいうと「沖縄」が好きです、もっと言うと唄の「花」の世界が好き。「泣きなさ〜い 笑いなさ〜い いつの日か いつの日か 花をさかそうよ〜♪」の曲です。地域も、時代も、問題も全く違いますが、(ひとつの活動として)菜の花プロジェクトも上ったり、下ったり、止まったり、紆余曲折しながら前に進んでいます。今は小さな活動かもしれませんが、土壌放射能吸収、BDF（バイオディーゼル油）、BG（バイオガス）製造と、土壌浄化と地域循環エネルギーを創出する素晴らしいプロジェクト。

ウクライナの地に、種が花を咲かせ、次の年も、また次の年も〜花を咲かせる。小さな活動の輪が少しずつ広がって行く事を切に願っています。

＊「チェル救」で検索すると、上位にでてきます。パソコンをお持ちの方、一度覗いてみてください。



【ちょっと自己紹介】

HP作成に関わらせていただくにあたり、運営委員会にも参加させていただきました。普通の顔してる、オジサン、お姉さんなのに、「ウクライナへの渡航経路はココがいいよ。」「オーロラ見たいよね。」「自家製ハム作ってます。」「ログハウス作ったよ。」なんて方がゴロゴロいます。そんな方々と気楽に会話を交わせた事がうれしい一日でした。

(マルオ)

ウクライナから新年のご挨拶

親愛なる日本の友人の皆さん！ このすばらしい新年の日々に、ご挨拶を申し上げたいと思います！

私たちの協力は、もう長年にわたります。私たちの友情は、世界でも最もすばらしいものの一つです。私たちは、人々に善をもたらす支援を行っているのです。その中には、私たちの子どもに光と希望を与える粉ミルクもあります。私たちの子どもは、未来の空に輝く星のようなものです。今もまた一つの星が生まれ、その星があなたによって行われた支援を必要としているかもしれません。チェルノブイリによって被災した、事故処理作業や障害者のための医薬品支援もあります。その薬によって、この困難な日々、どれだけ多くの病気から人々が救われ、彼らのもろい健康が支えられてきたことでしょうか。奨学金プログラムは、育ちゆく若者たちを温めてくれる、次世代のための人生のかまどに投げ込まれた石炭のようです。このかまどから、彼らは知識の輝きと明晰な思考を身につけて巣立ってゆくのです。皆さんのご助力と支えのおかげで、私たちの不幸は減らされていきます。太陽のような人々だけが、私たちの大地の発する邪悪な放射線を、有益なエコロジーの奇跡——バイオディーゼルとバイオガスに変えることができるのです。そしてこの新たな年、2010年が、すでに始動している従来からのプロジェクトを活性化し、また新たな発展と新たなアイデアを生み出してくれることを願っています。



慈善基金「チェルノブイリの人質たち」会計係 エヴゲーニヤ・ドンチェヴァ



ジトーミル農業生態学大学地域エコロジー研究所のスタッフ一同より、敬意を込めて心より新年、2010年のお祝いを申し上げます！ 私たちと「チェルノブイリ救援・中部」によって始められた、チェルノブイリ被災者支援の「ナロジチ地区復興ナタネプロジェクト」も、最も困難だった最初の3年が過ぎようとしています。バイオエネルギー製造のためのナタネ栽培を、汚染地域で行い、「土地を改良する」という、最新の技術の導入に関する科学実験と栽培の作業が、多大な努力を傾注しつつ行われています。しかし、その甲斐あって、私たちは今、目標をより明確にしています。それは、放射性物質によって汚染された地域を、人の生活に適した状態に戻すための、人道的・生態学的に根拠のあるアプローチです。ナロジチ地区の住民が、このチェルノブイリ事故後の年月、見捨てられ忘れ去られたと感じないですむように、皆さん一人一人が行ってくださっている支援への貢献に感謝します。もちろん、今日すべての住民が満足していて、万事順調であるとは言えません。未だに、切実で緊急な問題を抱えている人たちも少なくありません。私たちの子ども達が（主に彼らのために、放射線学上安全な生活条件が整えられようとしているのですが）、汚染のないすばらしいポーシェ地方で生きていくために、できる限りのことをしている自分の両親を誇りに思えるようになることが、一番大事なのです。今年も、私たちの協力がこれまで以上に順調に発展することを確認していますし、始められた仕事がよい結実を得るであろうと、自信を持って言えます。



今年が、あなたとあなたの近しい人たちに、平和・平穏無事な暮らし・そして繁栄をもたらしますよう、願っています。あなたの夢と希望がかないますように。親愛なる日本の友人の皆さんに、ご健康とご多幸をお祈りします！

地域エコロジー研究所長・准教授 N.ディードゥフ

財政再建委員会よりポレーシェご愛読の皆様に、最後のお願いです m(_)_m(神谷)

ポレーシェ 114 号を皆様に発送以降、多くのクリスマスカードをお送りいただき、無事、年末 2000 通強のカードを発送し、ロシア正教のクリスマスに合わせて、ジトーミルやナロジチの子ども達に配らせていただきました。お送りいただいたカードと一緒に、「被災地の乳幼児へきれいな粉ミルクを!」と、寄付金を添えていただいた方も多く、皆様方の暖かいお心と励ましに感謝いたします。(詳しくは P 6～7 の特集を参照してください。)

また、12 月は多数の寄付金のお振込みをいただき、厚くお礼申し上げます。以下に、12 月末現在の状況をご報告させていただきます。

①「賛助会員」の募集

- ・ ポレーシェ 113 号で、ポレーシェの年間購読料を 3,000 円とし、購読者を「賛助会員」とする…と呼び掛けました。しかし、購読者の皆様方から「その他の費目に寄付をしている場合は、どうなるのか?」とのお問い合わせも多く、114 号でお知らせしましたように、皆様の寄付金を個人別に年間集計して管理できる仕組みを、11 月中旬以降スタートしました。(09 年 4 月以降の集計作業を行いました。)
- ・ 年度内(毎年 4 月～翌年 3 月迄)に、費目を問わず寄付金合計 3,000 円以上をいただいた方を「賛助会員」として、翌年の 1 年間、ポレーシェを送らせていただきます。
- ・ 12 月末現在、「賛助会員」は購読者数の約 40%です。当法人の窮状をご賢察の上、更なるご協力をお願いいたします。

②「葉の花プロジェクト・一坪キャンペーン」の募集

- ・ 12 月末現在 43 名 79 口の応募をいただきました。
(114 号にて、「目標数の 10%弱の応募者と報告しましたが、「賛助会員」も含めた集計ミスでした。お詫びとともに、訂正させていただきます。)
- ・ 当キャンペーンは、広大なナロジチの大地に想いを馳せて、目標数 1,000 口と大風呂敷を広げて加入をお待ちしています。引き続き、ご支援をお願いいたします。

③「官民の助成金申請」を積極的に実施

- ・ 12 月末までに、5 団体への申請を行いました。
申請内容の重複を避けながらの作業が続いています。引き続き、1 月中に 3 件申請する予定です。しかし、ほとんどの団体が採用可否の発表を 3 月中旬～4 月中旬としており、予算案作成には、まだまだ苦労が続きます。

④「お宝ネット」販売スタート。

- ・ 114 号で、「資金作りのお宝ネットははじめました!」という記事を掲載しました。
12 月に、皆様から 24 点の「お宝」をお送りいただき、その内 9 点をネット販売にかけ、3 点の落札で、経費を差し引き 11,452 円が寄付金として入金されました。引き続き、「お宝ネット」販売を継続しますので、各ご家庭の「お宝」のご提供をお願いします。(送り先は、114 号 7 ページを参照してください。)

⑤11-12 月の寄付金のご報告

- ・ 11 月の寄付金は 149,360 円、12 月の寄付金は 1,455,656 円となりました。
皆様方の、暖かいお志に感謝申し上げます。

以上、財政再建委員会から、前号以降の状況をご報告させていただきます。新年度からの活動の財政基盤をより確実なものにすべく、「賛助会員」「一坪キャンペーン」「お宝ネット」「ミルクキャンペーン」等々にご協力いただきますよう、重ねてお願いいたします。

2 月代表団派遣 (2010 年 2 月 14 日～2 月 24 日予定) (原 富男)

毎年 2 月に行われている、ウクライナへの代表団派遣。今年は、2 月 14 日～24 日までの日程で、河田さんと私の 2 名が派遣されることになりました。例年、2 月代表団派遣は、4 月からの新年度の基本的な支援内容を話し合う目的で行われてきました。来年度は菜の花プロジェクト 4 年目であり、5 カ年計画の後半部分にあたります。いよいよ、プロジェクトの着地点を探る時期に入りました。



1. ナタネの栽培と放射能の吸収に関しては、農業生態学大学ディードフ准教授のグループが、精力的に研究を続けており、08 年度の報告書もできあがっています。この報告を、じっくり時間をとってお聞きし、今後の研究の方向性を出すべく議論をする予定です。
2. BDF については、製造装置のテストが終わり、いよいよ自前のナタネを搾油し、そのナタネ油から BDF を作る段階に入ります。そのためには、安定した搾油と、ウクライナのナタネ油の特性に合わせた BDF 製造条件の設定が不可欠です。また、栽培量や BDF 使用量の見通しも考えなければなりません。
3. バイオガスは、昨年装置が完成しました。しかし、初期運転の手違いなどで、ガス発生が時期が晩秋までずれ込んでしまいました。ガスへの点火には成功しましたが、その後メタン菌にとって苦手な冬に入ってしまったため、安定したガス発生条件を探るには至っていません。冬場のガス発生量の低下は予想されていたことですが、地下水位が予想以上に高かったこともあり、外気の影響を受けやすくなりました。この点を改善し、安定したガス発生を促す為に、今年は追加保温工事を行うとともに、ガス管理小屋内部の改修と、原料貯蔵工程・水供給システムなどでの追加工事を行う予定です。またバイオガス装置の所有権・運転・管理などについて、今回は現地側と最終協議をし、契約を結ぶ予定です。
4. いよいよ今年は、最終的に排出される廃棄物の処理技術の研究にも、着手することになります。さらに、菜の花プロジェクトの懸案事項について、現地の関係者 6 者による協議も行います。
5. また、現地ホステージ基金とは、今までの活動報告を踏まえて、4 月からの予算・事業計画・会計などについて話し合う予定です。とりわけ、被災者（事故処理作業員）3 団体への医療費支援に関しては、保険対象外の医薬品に限定して運用してもらっていますが、その実態を調査し、保険制度活用の効果・成果を評価するアンケート結果についても話し合います。
6. 毎回、たくさんの宿題を背負っての現地訪問ですが、高齢者・障害者の割引コンビ（…代表団 2 人のことです）で、今後の活動がスムーズに進むように、しっかり現地調査し話し合ってきます。

☆お宝ネット報告☆ (11 月から 1 月 28 日までの途中経過)

お宝ネットへの賛同、ありがとうございます。本来なら、一件ずつお礼状など差し上げなければならないのですが、貧乏…過酷なまでに…暇なし状態のため、誌上でお礼を申し上げます。

おかげさまで、お宝ネット開始以来約 3 ヶ月で、15 万円ほど売り上げることができました。

今後とも、量の多少に係わらず送ってくださいますようお願い申し上げます。(原)

	売上金額	ネット販売をした提供品
11 月分	44,755 円	SL 模型 2 点
12 月分	11,452 円	提供点数 24 点のうち、スーパーマー・ロシア語電子タイプライター・パソコン用プリンターなど 9 点の売上。その他は、委託販売店に出品または準備中。
1 月 28 日現在	約 90,000 円	クリスチャンディオール・サングラス・オーディオ装置（ホーンとドライバー）・英会話教材・CD ラジカセなど

特集!! クリスマスカードキャンペーン・ミルクキャンペーン 結果報告!!

クリスマスカードは無事、ウクライナへ贈る事ができました。



＜ジトミル市内アートホールにて (2010. 1/10)＞

カード・キャンペーン担当の研修生小島です。

カード総数は 2,008 通。個人、団体 196 名もの方にご協力いただきました。ありがとうございます。カードの梱包作業は、2,000 通(!)を越えるため四苦八苦。

それでも、手作りのケーキやおせんべいを送ってくださった方もおり、それらを食べながら（おしゃべりしながら）楽しく作業できました。そして、カードは「12 月 31 日に無事現地に着いた」との報告を聞き、ほっと肩をなでおろして、新年を迎える事ができました。

そうそう、ウクライナのクリスマスは 1 月 7 日なんです

よ。現地に届いたカードは、1 月 6 日にジトミルの学校で配布しました。また 10 日と 13 日にもカードを配布し、今年のクリスマスカード・キャンペーンは大成功となりました。カードを書いてくださった方、折り鶴や折り紙作品を送ってくださった方、またスタッフのためにお菓子を送ってくださった方、本当にありがとうございました。

思い返せば、昨年 9 月に右も左もわからないまま研修に来て、いきなり任せられた「クリスマスカード・キャンペーン」。初めてカードキャンペーンの概要を伺ったときは、責任の重さに驚きと軽い恐怖を感じていました。恐怖は、昨年担当の黒瀬さんやスタッフの方の協力もあり、杞憂となりましたが、やはり責任あることなので、その責任を全うする重みを感じながら、カードキャンペーンに取り組んでおりました。10 月に入ると、フレンドシップやワールドコラボなどのイベントで、カードを書いていただきました。初めてカードを書いていただいた時には、イベントという特殊な場所柄か、忙しく感動する暇も無く過ぎてしまったような気がします。しかし、時を同じくして、初めて郵送でカードが届いたときは、そのカードに愛着が湧いたことを覚えています。



＜カジフ市内の学校にて (2010. 1/13)＞



＜ジトミル 25 番学校低学年クラスで (2010. 1/6)＞

私の作った拙いチラシを見て送ってくれたカードですね。さて実は、今だから言えますが、今年カードキャンペーンは 11 月に集まっていたカードが 500 通ほど、という例年に比べると大変に少ない数字でした。昨今の経済情勢のおり、「クリスマスどころではないよ」って方もいたのかと思います。何より、私自身の広報力不足がネックとなっている模様。もちろん、カードキャンペーンの真髄は数ではありません。そう思いますが、やっぱり

りね、数が欲しい。しかし、12 月に入ると個人で送ってくれる方、団体に複数枚送ってくださる方がともに増えて、一気にカードが集まるようになりました。結果、2,000 通を超えるカードを送ることができました。さて、その間に私が何か行動をとったかということ、う〜む、学童保育にカードを書いてもらいに行ったくらい。それほどたいした事をしていない。2,000 通を超えるカードが集まったのは、チェル救が長年積み重ねた結果からかもしれませんし、なにより自分も、決して余裕があるわ



<ジトミル 25 番学校高学年クラスで (2010. 1/6) >

を書いてくださった方、ありがとうございました」ということです。本当にありがとうございました。

クリスマスカードの行き先は？ (戸村京子)

1 月 13 日、ナロジチ町とラスキ村の学校でクリスマスカードを配り、それぞれの学校で生徒たちの歓迎を受けました。まずナロジチ町の学校へ到着し、教室へ入っていくと、子ども達が整列して待っていました。歓迎の言葉に続いて、新年・クリスマスの歌を歌ってくれました。クリスマスカードを配ると、子ども達は興味津々で開けていまし



<ジトミル市内アートホールにて (2010. 1/10) >



<ナロジチ市内の学校にて (2010. 1/13) >

た。

ラスキ村の学校には、60 数名の全校生徒がホールに集まってきて、歓迎の歌を先生のアコーディオンの伴奏で歌ってくれました。そしてそのあと、手作りカードを興味深げに受け取り、ワクワクしながら開けていました。

カードは、被災者の皆さんを励ますだけでなく、遠い日本からの心のこもったメッセージ。一生懸命描いてくださった皆さんの気持ちは、しっかり子ども達のなかに届いています。真心をありがとうございました。

<ミルクキャンペーンへのご支援、ありがとうございました> (山盛)

チェルノブイリ救援・中部が発足した 1990 年、日本の救援団体として、初めてウクライナ入りした代表団は、現地（コーラステン）の母親に「母乳が汚染してわが子に飲ませられず、スープだけで育てている。汚染していないミルクがあれば、この子に与えられるのに。」と訴えられました。私達は、赤ちゃんの唯一の「命の糧」であるミルクを与えられない母親の苦しみを知り、いたいけな子ども達が、その犠牲者である事を知りました。以来、子ども達へ汚染されていない「きれいなミルクを届けよう」と、このミルクキャンペーンは続けられています。昨年までは、ウクライナの**ジトミル市立小児病院**に入院している子ども達や、**州立孤児院**の子ども達に贈り、「薬」のように大切に与えられています。つい最近の現地からのメールには、「金融危機以来、州立小児病院でもミルクの予算が不足し深刻である」との報告が書かれていました。このような事情から、今回皆様からご寄附いただいた 63 万円のミルク支援金は、**ジトミル州立小児病院**の子ども達にも贈る事になりました。現在、事務局では現地へ届ける準備に入っています。ご支援、本当にありがとうございました。

菜の花プロジェクトの報告会のお知らせです

菜の花プロジェクトが始まってはや3年。

「桃栗3年、柿8年」といいますが、菜の花は5回の収穫を行い、土壌分析データも実がなっていました。現地ナロシチでは、陽気でちょっと怠け者のウクライナ人たちに、「日本人イコール働き者」というイメージがしっかり根付くほど奮闘しています。

報告会では、新たな武勇伝を交えてプロジェクトのいきさつ、そして最新情報を報告します。

一坪キャンペーンへの参加に悩んでいるあなた！ クリスマスカードを描いてくださったあなた！ 土壌浄化の最新データを知りたいあなた！

春なのにお出かけの予定のないあなた！ お待ちしています☆

(市原)

愛・地球こどもクラブの「地球こども会議」に参加してきました。

(山本)

昨年の12月20日(日)に、地球こども会議のゲストとして参加してきました。地球こども会議というのは、2005年に愛知県で催された「愛・地球博」の理念のもとに、この会議を通じて、子ども達が国際理解を深め、世界平和について考え、自ら行動できるように支援していくという研修会です。会議に参加している人たちは中学生から高校生までで、自分の興味のある分野に分かれて研修を受けていました。

今回は、何度か行われている研修の内の一回で、テーマは『人と出会って学ぶ』。団体の紹介や、私が海外支援に興味を持ち始めたきっかけなどを話してきました。子ども達からは、絶え間なく質問が飛び、チェルノブイリの事故のこと、被災者の人たちは今どんな生活をしているか、どうして海外支援を行いながら看護学校に通い始めたのか…などの質問に、熱く語りました。”未来の自分”について深く考えている子が多く、「自分がこのぐらいの年齢の時は、何を考えて生活していたかな」と、自分を見つめなおすことができました。子ども達からの質問はとても刺激的で、また新鮮であり、「チェルノブイリのことをもう少し深く学び直さなければ」…と思うことができました。

生物多様性の保全における NGO の果たすべき役割に参加して

(山本)

1月17日(日)に、なごや地球ひろば(JICA 中部)で行われた「2009年に開催されるCOP10に向けて、取り組むべき課題を話し合い考えていく」というワークショップに参加してきました。ワークショップの基調講演として、チェル救の河田さんが「生物多様性とは？」について話されました。河田さんがメインスピーカーとなる講演を、他団体のイベントで聴くことがほとんどなく、とても新鮮味がありました。ワークショップでは、グループごとに分かれて、“地球上に生物がいなくなったらどうなるか？”“生物と共存していくためにはどうしたら良いか？”などについて話し合いました。

『生物多様性条約』と聞くと難しそう…と思っていましたが、今回のワークショップを通して『地球上の生物と一緒に暮らしていくための約束』と考え、とても身近な問題だと気がつくことができました。今年は、そんなことを気にかけてながら過ごしていけたらと思います。

「4年目を迎えた菜の花プロジェクト」

夢が広がる最新情報!! 報告会

日時 3月6日(土)

午後1時30分～3時

場所 ウィルあいち

(地下鉄「市役所」駅 ②番出口より東へ徒歩約10分。)

内容 2月派遣団 河田氏・原氏 報告
現地撮影映像(宮腰氏撮影)

「チェルノブイリ被災者・ゼムリヤキ(同郷人)」

(ウクライナ・キエフ市)での研修

09年12月～10年1月 編 【外務省長期研修プログラム】

(戸村 京子)

～年末・年始・クリスマス・旧正月の喜怒哀楽～

10月後半からのインフルエンザの流行が尾を引き、スタッフも何人かが風邪などで休み、少ない人数で仕事をこなしました。1月7日のウクライナ正教のクリスマスと新年を前に、12月24



＜被災者団体の集会（2010.01.27）＞

日にヤリンカ（モミの木）を立て、飾り付けをしました。モミの木の良い香りが部屋に漂いました。30日に開かれる恒例の『新年とクリスマスを祝う会』の準備に、担当スタッフはおおわらわでした。当日は大雪の悪天候で、「これじゃ来る人が少ないわ」と言っていたのですが、夕方には自慢料理を持参し30名の会員が集まってきました。クリスマスにまつわる寸劇や詩、歌にダンスにと久しぶりに賑やかに華やき、雪景色を外にゼムリヤキの集会場は温かでした。

【ジトミルでクリスマスカードの配布】

チェル救『カードキャンペーン』で届いた2,000通余の、新年・クリスマスカードを子ども達に届けるために、1月6日、10日、13日とジトミル市、ナロジチ町、ラスキ村の学校等へ行ってきました（P7参照）。雪道でジトミルまでバスで往復8時間かかった時もありましたが、どこでも子ども達の歓迎を受け、日本の皆さんからの温かい心も手渡せたかと思います。

【ウクライナ国境とモローズ（寒波）】

7日のクリスマスも過ぎ、新年の活動が始まった1月半ば、ドイツの支援者が車で支援物資を運んで来るといので、受入れ準備万端、到着を待っていました。そこへ電話が鳴り、書類に問題があるとかでポーランド・ウクライナ国境で入国できず、ドイツに引き返さざるを得ないということです。スタッフ一同の落胆に更に追い討ちを掛ける連絡が入り、そのオリベル氏が雪道で転倒し骨折、緊急入院となったと。皆は悲痛な声と涙。支援物資はいつ届くのか、不明です。今冬はヨーロッパ全域が厳しい寒波で、ウクライナでも氷点下25℃まで冷え込み、踏みしめられた雪道が凍結してツルツル滑ります。転倒する人も多く、一步一步を確かめながら歩かねばならず、歩くだけで相当疲れます。

【アンナさん】

ゼムリヤキでは、新年に不幸が続きました。闘病中のアンナさんが亡くなりました。彼女は幾つもの試練を乗り越えて、いつも明るく、歌い、詩を披露し、日本の生け花をアレンジした独自のイkebanaを飾っては、人を楽しませ、温かさや希望を与える人でした。「私はもっと皆さんと一緒に生きていきたいの」と涙を落とされた『秋の祝日』の日の姿が思い出されます。

【ウクライナ大統領選挙】

17日の大統領選挙の日、投票に行くスタッフについて投票所の見学に行きました。選挙結果は、2月に決選投票。数日前、行政機関から事務所に障害者のリストが配布され、電話で在宅投票を希望するかを問い、次に誰に投票するか決めているかという任意の質問もあり、福祉的な配慮というより票稼ぎ？と眺めていました。

【お客に招かれ】

土日には、スタッフが次々に自宅へお客に招いてくれます。腕によりを掛けたウクライナ料理もおいしいし、暮らしぶりやアルバムで「こんなふう生きてきたのよ」と人生の一部を見せてくれ、より親近感が増します。

【研修終了が迫る】

3月8日の研修終了が近づき、残す日々でゼムリヤキ・スタッフへのアンケートやジトミルの被災者団体への聞き取りを行い、これまでの研修結果もまとめなくてはなりません。（1月27日記）

放射能は種の多様性を脅かす

チェルノブイリ事故から、今年で 24 年目になる。ウクライナやベラルーシ・ロシアなど、チェルノブイリの放射能がたたく降り注いだ汚染地域では、人々の病気や動植物の自然界における奇形や突然変異が知られているが、これらの国の外で何が起きているかはあまり知られていない。最近になって明らかになった、ヨーロッパの国々における昆虫の異変は、低レベル放射能の影響が、チェルノブイリだけでなく原発周辺でも起こりうることを示している。スイスの科学イラストレーターの 25 年間の研究を紹介する。

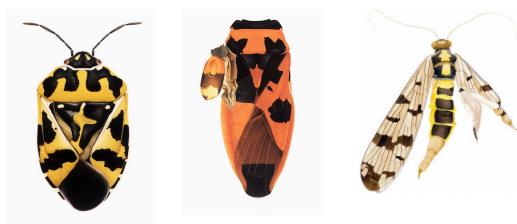
● カメムシの奇形を 25 年間観察

これは、スイス・チューリッヒ大学自然史博物館の科学イラストレーター、コルネリア・ヘッセ-ホネッガーの物語である。彼女は、博物館の科学イラストレーターの仕事をしながら、チェルノブイリ事故の結果起こった、昆虫…特にカメムシ (Heteroptera) …の仲間の異変に気づき、25 年間観察してきた。その結果を、科学雑誌編集者のピーター・ワリマンとともに、科学雑誌 (Chemistry and Biodiversity: 化学と生物多様性、2008、vol. 5, p499-539) に発表した。25 年前、当時の専門家達の多くは、「チェルノブイリ事故は、国内の昆虫などに大した影響を与えないだろう」という意見であった。しかし、コルネリアは、チェルノブイリの放射能で汚染したスウェーデンの汚染地帯で、ショッキングなカメムシの奇形を多数発見した。

● 原発や再処理工場周辺でも奇形

その後、彼女は世界各地を回り、2007 年までに 16,000 例のカメムシを集め、詳細に観察した。その結果、チェルノブイリの影響地帯だけでなく、スイスやドイツの原発周辺、フランスの再処理工場 (ラ・アーグ) 周辺でも、多数の奇形カメムシを採集した。場所によっては、30% ものカメムシが触覚を失っていたり、羽の奇形・体節の非対称・潰瘍・黒点・色素異常などが見られた。こうした異常は、原発や再処理工場からの距離ではなく、明らかに風向きや地形と関係し、風下に多くの奇形カメムシが見つかった。風下地域には、原発からトリチウ

ム (H3)、放射性炭素 (C14)、ヨウ素 131 などの放射能が定常的に風に乗って流れ、カメムシの食草を汚染する。カメムシは、こうした低レベルだが長期的な汚染に敏感であり、「放射能に敏感なバイオ・インジケーターだ」と彼女は云う。



● 汚染地域では種の多様性が減少

最近の別の研究 (Biology Letter 2009, March 18) では、アメリカとフランスの研究者達が、ウクライナとベラルーシの比較的低レベルの汚染地域の森で、マルハナバチや蝶々・バッタ・トンボ・蜘蛛の生息密度を調べた。それによると、これらの昆虫や蜘蛛の数は、汚染レベルが大きくなるほど顕著に減少していることが分かった。こうした昆虫が減れば、当然それらを餌とする小鳥も減少するはずである。事実、別の研究者ら (Biology Letters : 2007, March 27) は、汚染地域で小鳥の数が汚染レベルに比例して減少し、特に汚染した土壌昆虫を食べる小鳥の数に大きく影響し、生息する小鳥にも奇形が多いことを発見して、生態系への影響は予想以上に深刻だ、と指摘している。チェルノブイリの放射能は、自然界の種の多様性にも大きな影響を与えつつある。(河田)

竹内さんのウクライナ便り

1月17日に行われた大統領選挙の結果については、日本のマスコミでも報道されていますので、ここで繰り返すことはしませんが、2月7日の決選投票のゆくえは予測が難しいところです。これを手に取られる頃にはもう結果が出ているでしょうが。しかし、いずれの候補者が勝利を得るにせよ、国内に山積した問題（はびこる汚職・煩雑な法律の拘束による経済活動の伸び悩み・公共住宅の老朽化・保健行政の無策等々）が、着々と解決されていくとはとても思えません。「自分及びその周辺のため富を蓄積することが、政治家の活動の主目的である」というのが庶民の共通認識であり、それを裏書きするように、野党第一党の党首ヤヌコーヴィチ氏、ティモシェンコ首相のいずれも、彼らによって申告された収入では到底入手不可能な豪邸を構えており、ティモシェンコ氏の衣装道楽はつとに有名です。

昨年末の某週刊紙に掲載されたウクライナ独立後の経済動向に関する長文の記事は、ウクライナ科学アカデミー発表のレポートに基づくものですが、そこからいくつかの指摘を拾い、この間の政治家たちの活動の「成果」をご紹介しますように思います。

「ウクライナでは、国内総生産の伸びに比して給与の増加が大きく〔人気取りのため、選挙のたびに最低賃金・最低年金額が増やされてきた〕、それがインフレにつながっている。国の年金基金の支出額は、1999年に国内総生産の6.5%であったのに対し、2008年では15.8%となっている。エネルギー資源価格の高騰は、ウクライナの製造業者にとって省エネ対策の刺激にはならず、単に製品価格上昇を招いている。技術開発のための投資も、ソ連時代に比べ激減している。輸出品は付加価値の低いものが多いのに対し、輸入品はハイテク機器あるいは最終消費財が主である。2009年の1月～8月の間に、機械製造業の生産高は52.2%、冶金工業は39.0%、石油化学産業は31.9%それぞれ減少。一方、99年から08年までの間に、行政・司法・警察関連の国家支出はGDP比で2



〈日本からの聞き取り調査（ゼムリヤにて12/17）〉

倍以上に増加。」

「99年から06年まで、国の債務額は750～850億グリヴナで推移したが、07年には880億グリヴナ、08年末で1,894億グリヴナに達し、09年7月末時点で2,560億グリヴナとなった〔現在1ドル＝8.1グリヴナ前後〕。世界銀行の試算によれば、07年7月時点でウクライナのヤミ経済は、公式のGDPの50%。ウクライナ内閣による08年の評価では、ヤミ経済の割合は31.1%で、01年以来最大の値となっており、09年前半に関する経済省の中間評価では39%。これは、金融・経済危機と効率の悪い税制に対する実業界の反応といえる。また、大統領選や可能性が取り沙汰される早期最高会議選は、莫大な選挙資金を必要とし、それもヤミ経済化促進の要因である。中央銀行の商業銀行に対する巨額のリファイナンス・ローン（09年9月～12月に1,110億グリヴナ）も、ヤミ経済の発達を助長している。例えば、ナドラ・バンクは2企業に対し何の担保もない融資を行い、3ヶ月後にこれら企業は倒産、その債務は帳消しとなった。多くの中小企業では、ヤミ取引の割合は80～90%に上る。」

さて話は違いますが、国際的に著名な映画監督、キーラ・ムラートヴァの新作が12月から一般公開され、忙しかった私は二番館でやっと観ました。ストリート・チルドレンの実態を冷酷に描いた作品で、収益は彼らの社会復帰施設に寄附されるということでした。しかし、夜遅い時間帯の上映とはいえ、最後まで残っていた観客は2人。ムラートヴァ鼻根の私は、わくわくして観ましたけれど。（1月29日）

事務局便り

正月早々、「ベルギー産ブルーベリーコンポートから、セシウム 137 が高い値で測定されました」というメールが、事務局に届いた。小金井市放射能測定室からの情報だ。フランス以北のヨーロッパのブルーベリー製品に、この傾向があるという。チェルノブイリ原発で汚染に見舞われた北欧では、このブルーベリーを栽培するときに使う、ピートモスが採れる。ブルーベリーから検出されたセシウム 137 は、ここから運ばれたのではないかと測定された方は書かれている。私達は、未だ「チェルノブイリ」から自由ではないのだ。

今年は、チェルノブイリ原発事故から 24 年を迎える。この災禍を決して忘れてはいけなく、4 月 25 日に名古屋 YWCA ビックスペースで「チェルノブイリ 24 周年 in 名古屋」が開催される（展示は 23 日～25 日）。事務局の河田さんと、フォトジャーナリストの広河隆一さんが講演。是非、ご参加ください。（山盛）

サポーターの皆様からの声（振込用紙に書いていただいたメッセージをご紹介します。）

- ・世界の平和をつくる為に、一人一人の方の心をもつことが大切だと思います。（石川県・Y さん）
- ・菜の花プロジェクトがんばってください。もう一息！（名古屋市・T さん）
- ・通信を読んで、支援の気持ち、また新たになりました。（大分県・M さん）
- ・アルミ缶で集めた ハッピーランチデーの募金です。（静岡市・静岡 S 小学校）
- ・一坪・一口しか応援できず、心苦しいのですが、大きな希望です。（岐阜市・K さん）
- ・安心して母乳があげられる日はまだまだ先のことでしょうか。原発に頼ざるを得ない社会・世界が悲しいです。（名古屋市・K さん）
- ・浜岡 1・2 号も廃炉となり、約 30 年後にはきれいになりますが、ドラム缶がたくさんです。ドラム缶の処理が課題ですね。（御前崎市・N さん）
- ・いつもありがとうございます。みなさま方のチェルノブイリへの支援活動に敬服し、ほんの少しですが、お役に立ちたいと思っています。（福山市・S さん）
- ・活動頑張ってください。（新座市・N さん）

編集後記

☆ただ今、猫の額ほどの庭で猫の戦い中。（たぶん）姫を巡っての睨み合いが続き、文字に書けないあの叫び声。外の風は冷たいのに、猫の殿たちは暑いんだね。あ、今日は私の誕生日～。（美）

☆事務局便りを読んでめっちゃショック！ 私は数年前から、北欧産のビルベリーが入ったサプリメントの愛用者。不幸にも読んだその日に、数日前に頼んだ 1 年分のサプリが届いた…。（佳）

☆研修の 6 ヶ月がこんなに早く経ってしまい、あせるやら、名残惜しいやら。それにしても、この厳寒の時期は不利だ。同じ距離を歩くだけでも、以前より 10 分も長く掛かってしまう。日本は春が近いとか？考えられないこの季節差。（今日）

☆世の中は、「偽」から「変」、そして「新」へ。今年は、「偽」を「真」に変える年。「世界金融危機の偽造」「911 事件の偽装」「地球温暖化の偽証」「新型インフルエンザの偽造」そして「東京地検&マスメディアによる冤罪の偽造」…。果たして、これらの疑惑の「真実」は？（J）

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473